

がれき受け入れ 課題認識された

岡田氏要請で知事

鈴木英敬知事は四日、定例記者会見で、岡田克也副総理と三日に面談し、東日本大震災で生じたがれきの受け入れを要請されたことについて、「焼却は市と町がメイン。県の立場から、焼却灰の行き先や国が持つ費用について意見交換した。(岡田副総理は)課題はあると認識されたと思う」と話した。

岡田副総理が三日の定例記者会見で、「あすはわが身」として県に受け入れを求めたと語ったことに対し

ては、「精神的な部分だけでは、なかなか決断できない。安全や最終処分場、風評被害の補償の問題がある」と述べた。

六日が期限となっている国からの広域処理要請の回答をめぐることは、「市長会、町村会と話している。五日の県議会の全員協議会で方向を報告し、意見をもろう」と説明した。十九日の市長会定例会と二十日の町村会理事会で一定の合意を得られるように、材料として安全基準などのガイドラインを作成すると述べ、「合意が得られ、実際やるぞというところがあれば活用できるようにする」と話した。